

令和4年度 現地検討会実施状況 (技術の普及)

(名)

開催数：5

国有林	20
都道府県	28
市町村	16
森林組合	9
林業事業者 (森林組合を除く)	8
研究機関	3
その他	20
合計	104

検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真
着果調査	6月13日	上川中部森林管理署	旭川市 (国有林)	国有林 1名	北海道育種場による採種園 (トドマツ・カラマツ・グイマツ) の着果状況調査を兼ねて苗木についての知識の醸成のため。	北海道育種場による採種園 (トドマツ・カラマツ・グイマツ) の着果状況調査を兼ねて苗木についての知識の醸成のため。	
				都道府県 名			
				市町村 2名			
				森林組合 名			
				林業事業者 (森林組合を除く) 名			
				研究機関 3名			
				その他 名			
				合計 6名			
令和4年度市町村職員等技術向上研修 (森林整備技術検討会)	9月16日	北海道日高振興局森林室	日高振興局 西部合同庁舎研修室 平取町有林9林班85小班	国有林 9名	市町村職員等技術向上のため	①レーザー (マプリー、OWL) による林況調査 ②全天球カメラを用いた林況調査 現地実習、林分把握 (データ分析)	
				都道府県 10名			
				市町村 3名			
				森林組合 2名			
				林業事業者 (森林組合を除く) 5名			
				研究機関 名			
				その他 名			
				合計 29名			
令和4年度市町村森林整備技術等研修会	9月30日	・後志振興局森林室 ・後志森林管理署	虻田郡京極町 民有林	国有林 3名	市町村職員の技術の向上	森林室は、サークルによる標準地調査を指導、国有林は全天球カメラによる材積把握及び記録写真を指導。	
				都道府県 6名			
				市町村 5名			
				森林組合 名			
				林業事業者 (森林組合を除く) 名			
				研究機関 名			
				その他 2名			
				合計 16名			

検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真
釧路湿原自然再生協議会 第2回森林再生小委員会 現地検討会	10月18日	主催：釧路湿原自然再生協議会 森林再生小委員会 事務局：釧路湿原森林ふれあい推進センター	根釧西部森林管理署 293ろ林小班（標茶町）	国有林 2名	標茶町雷別地区で高齢トドマツ人工林が、2000年(H12)に気象書で立枯れが多く発生。その再生を図るため、郷土樹種の広葉樹を植栽種として、その回復に努めて来たところである。しかし、野生生物の食害（エゾシカ、エゾキウサギ）が大きかったため、植栽木を食害から守る保護管（ツリーシールド）設置などにより、近年は生存率が高くなっている。その効果による順調な生育状況の紹介と保護管の取り外し時期・再利用の検討などを現地視察を通し、委員から意見をいただくため。	1. 雷別地区自然再生事業地の事業概要・取組み状況の紹介 2. 自然再生事業地の復地回復地の視察及び今後の施業方法の現地検討 【笹地10, 11, 13 3カ所】 3. 自然再生事業地の今後の検討課題（検討項目）の質疑応答・意見交換 ・視察時の主な意見交換(笹地13 D51) (委員長) ここは植えてから何年経っているのか。 (事務局) 13年である。平成21年に植えている。 (委員長) 今までに保護管を外した植栽木は無いのか。 (事務局) 2本ある。これらは、エゾシカの食害を受けていない。 (委員長) 植栽木の高さ的には問題ないので、保護管を積極的に外してはどうか。何らかの形で基準を作り、それが適切かどうかモニタリングして、シカ害に遭ったかどうかなど、そういう情報を積み上げていけば、いつ保護管を外したら良いか決まるのではないか。 (事務局) 委員長のお話を参考に早めに保護管を外すことを検討していきたい。また、撤去したプラスチック製保護管の処理も含めて、環境に配慮した森林づくりを進めていきたい。	
				都道府県 1名			
				市町村 1名			
				森林組合 1名			
				林業事業者（森林組合を除く） 1名			
				研究機関 1名			
				その他 11名			
				合計 14名			
ねむろ森林づくり交流会	11月1日	主催：根室振興局森林室 共催：根釧東部森林管理署	根釧東部森林管理署 1121林班(別海町)	国有林 5名	自治体林務担当者や森林組合職員等を対象として、市町村森林整備計画に基づく適切な森林管理や森林・林業に関する知識の向上等人材育成を目的として実施。	別海町の国有林1121林班において、森林3次元計測システムOWLの操作方法説明後、参加者にOWLで計測してもらい、座学でその計測データを用いて集計操作や留意点について説明、レーザー計測による作業の効率性について理解を深めてもらった。意見交換では、国有林でのレーザー計測器の活用状況などの質問があった。 令和元年度から行っているクリーンラーチ・カラマツコンテナ苗の生長量調査結果等について情報提供をし、コンテナ苗活用によるの造林作業の軽労化について理解を深めてもらった。	 
				都道府県 12名			
				市町村 5名			
				森林組合 7名			
				林業事業者（森林組合を除く） 3名			
				研究機関 1名			
				その他 7名			
				合計 39名			